

# 第58巻TPOに応じたパークゴルフ

## ★秋芝や春先の芝に対応するために！

夏に比べて、秋や春先には芝対策を考えなくてはなりません。寒くなると、芝の勢いが弱くなります。夏と同じ距離感で打つと、オーバーしてしまいスコアを崩すことがあります。しかし、大会等の場合、早朝スタートの場合は、朝露の影響を受けることがありますので、その見極めが大事です。また、大会終了まで朝露の影響を受けるわけではありません。朝の早い時間帯は夏よりも芝が重いかもしれませんが、しかし時間が経つてくると朝露が消えると、芝が弱くなっているため非常に速い芝に変わってしまいます。秋・春先のプレーでは、時間帯により芝の速さが変わることです。状況判断をキチンとして対応しましょう。ラフと、フェアウェーを刈り分けているコースでも、この時期になるとあえてラフを通した方が良い場合もあります。(夏のFWより若干重め)ラフの芝の長さを見て判断する必要があります。

秋芝、春先の芝で手こずるのは「まんじゅうグリーン」の攻め方です。アプローチを夏と同じように攻めると思いがけないほどオーバーして返しも入らないという結果になってしまいます。夏よりも1センチくらい短めとか、1.5センチ短めにアプローチするとかが頭に入ればなりません。夏の場合は、アプローチで入れに行こうという攻め方も、秋、春先にはカップ1センチ以内に寄せようという意識が結果的に良い結果に繋がります。



同伴者の打球をよく観察することで、自分の力加減を考えることにより良い結果になります。漠然と、プレーしないで、同伴者のプレーをよく見てボールの転がり具合、どれくらいの力加減で打ったか参考にしましょう。

## ★雨の日のパークゴルフ準備とプレーの仕方

パークゴルフの場合は、雨が降ったら練習の場合、練習中止とするプレーヤーは多い。しかし、競技大会となると、コースがクローズにならない限り競技大会は開催される。日本の場合は、1971～2000年の降水量(日降水量1ミリ以上)の平均値はほぼ101日、そのうち10ミリ以上44日、30ミリ以上は13日だそう。3ミリ未満は弱い雨、10～20ミリがやや強い雨、20～30ミリが強い雨と定義づけているそう。大会等で、どうしても雨の中でプレーしなければならない時の心構えと準備の仕方、そしてプレー上の注意点についてまとめておこう。

雨の日で重要なことは、下記の2点です。

### 1、雨にぬれることによるプレーへの影響を最小限にする。

まず、道具の準備である。傘を使うプレーヤーは、傘の準備。レインウェア、防水性の高いシューズ、グローブ、帽子、タオルの点検である。靴とウェアは耐水性と通気性の両方を兼ね備えたものを準備したい。ウェアの場合は、ゴアテックスのような素材が少々高くてもゴアゴアしなくて良い。グローブは、雨用のグローブ(各メーカーあり)(インスパイラル・グローブ)が売っているので、それを履くとグリップの心配は大幅に減る。帽子も、雨用の帽子を1枚は欲しいものだ。レインウェア、帽子も何回か雨の中でプレーすると防水力も少し落ちるので、定期的に防水スプレーをかける必要があるだろう。靴については、できるだけ防水処理のしたあるゴルフシューズとか、パークゴルフ用でゴム靴が販売されているのでそれを利用したり、ホームセンターに園芸用のゴム靴を売っているが、それを利用しているプレーヤーも多い。



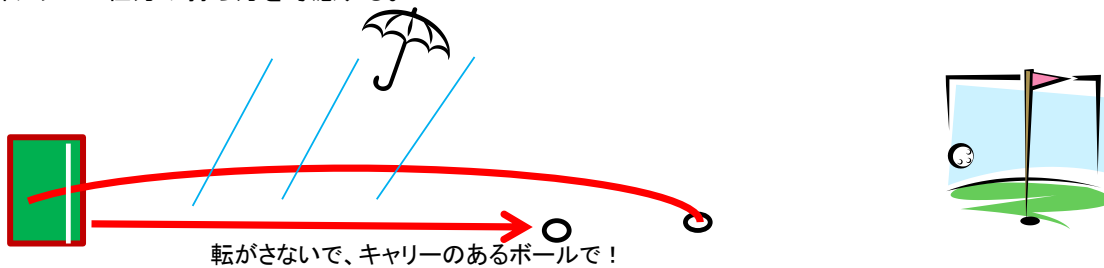
雨に強いインスパラル・グローブ1,500円+税



雨用帽子は各メーカーで販売されている

## 2、雨におけるショットの影響を考慮したプレーの仕方

まず、ティショットだが、雨のためランがでないから、できるだけキャリーで飛ばすようにした方が有利である。ティアップの仕方や打ち方を考慮する。



2打目以降では、芝の抵抗が思った以上にあるので、クラブを短めに持ち、体重移動はできるだけ抑えて打って行くのが良いだろう。雨が降ってくると、時期にもよるが、春先、秋、初冬で気温が下がってくると、思ったより飛距離は出ない事を頭に入れておこう。

長時間雨が降っていれば、当然グリーンは柔らかくなっている。グリーンの硬さの状況や変化などにも注意を払う必要がある。



芝目の影響も少なからずある。乾いた状態よりは、濡れている状態の方が、曲りは少ない。例えば、乾いた状況だと右カップ5ヤード外したところを打っていけば入としても、濡れた状態であると右カップを外さないで打つとか状況判断をする必要がある。どうぜん、順目、逆目も打つ強さは変わってくるので意識すること。

アプローチでも、雨の影響は多に受ける。ランはあまり出ないのでキャリーの距離を通常より長くとらなければならない。キャリー3分の1、ラン3分の2を状況にもよるが、キャリー2分の1、ラン2分の1としなければならないかもしれない。状況判断が大事だ。

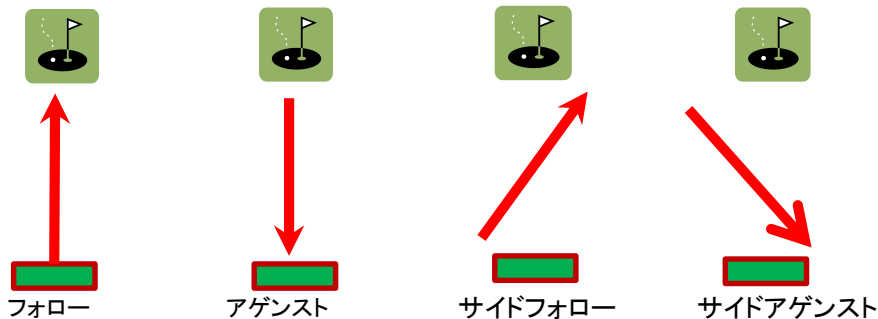
バンカーショットの場合も砂が湿って硬めになっていることもあるので要注意。



ルール上の留意点はカジュアルウォーターのルールを活用できる場所では多めに活用しよう。スタンス、ボールが、及びボールがカジュアルウォーターの中、スタンスを取った時に地面から水がしみだしてきても救済は受けられる。ぬかるんだ地面に埋まっている状態であっても救済は受けられるので救済処置は適用される。

### ★風が強い日のパークゴルフ

風のある日のパークゴルフは、コースマネジメントは難しく間違えるとスコアを崩す要因となる。私に対策として考えていることを、まとめてみます。無風の、状態でパークゴルフができるというのは、極稀だと思います。基本的に向かい風の事を、アゲンスト、追い風の事をフォロー、横風の事をサイドフォロー、サイドアゲンストというが、これは和製英語である。正しい英語は、ヘッドウインドウ、ダウンウインドウ、サイドウインドウという。



そこで、風の対策法（対処法）を知っておくことは、コース攻略、スコアメイクにはとても重要なことです。

まず風の読み方です。「大きな風」を読んでから、「小さな風」を読みます。「大きな風」は空の雲の流れを見ます。そのあと、「小さな流れ」を見ますが、「小さな流れ」を見る方法としては、芝を少しちぎって上に放り投げるやり方があります。芝の流れる方向、大きさをみて風向きと風速を判断します。他に、木の揺れ方によっても風の強さを測ることが出来ます。また、枝葉が、右から左に揺れているのか、逆なのかどうか見ることで風向きがわかります。



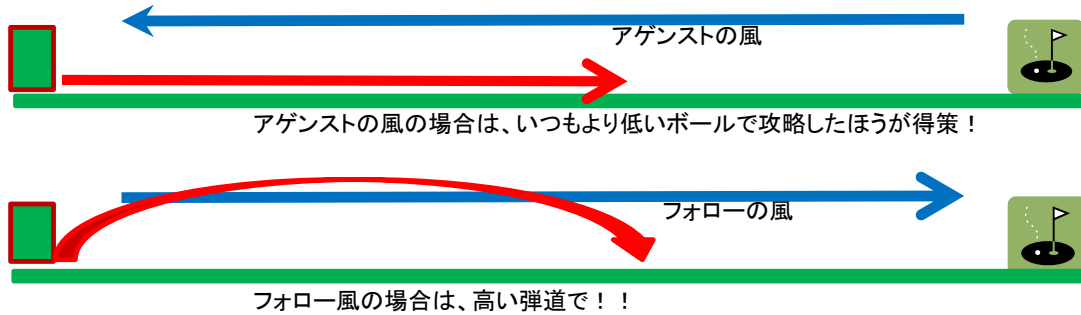
「大きな風の流れ」は、雲の流れを見る。



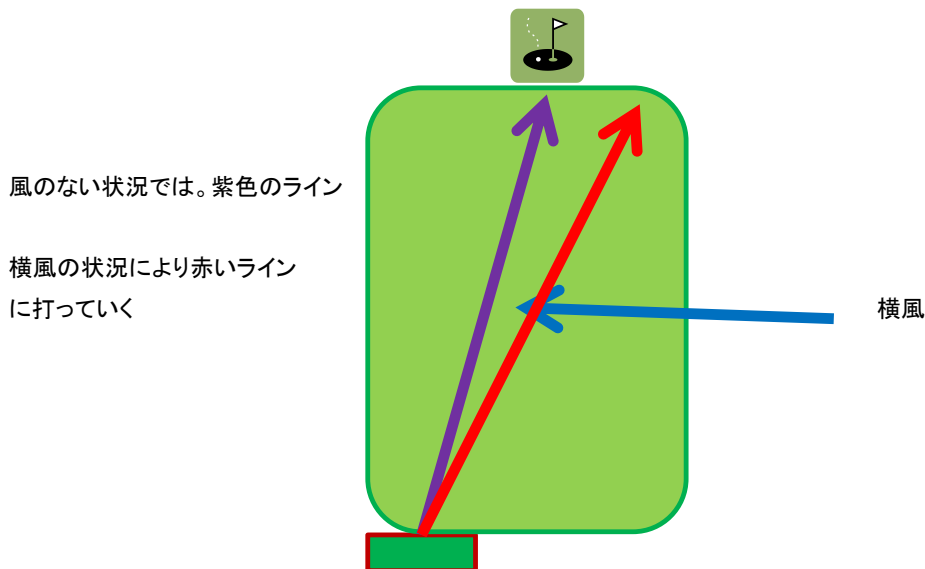
樹木の揺れ方で強さ、方向を見る

ショットで難しいのは、アゲンストの風の時です。ロブショット気味のショットをする人は、風に押し戻され飛距離がでません。いつもより、アドレスで、ボールの位置を内側に入れてできるだけ低いボールで、風に影響されないボールを打つべきだろう。また、低いボールといえども、風の影響は受けるので風の強さにより強めに打たなければならない。

逆に、フォロー風の場合は、高い弾道のボールを打った方が距離を稼ぐことが出来ます。風の強さにより、いつも打っている距離の5%減、10%減、20%減と風の影響がどうなるかよく観察して計算して欲しい。



右 横風の場合は、無風の時と同じ方向にボールを打ってはいけない。いつも打っている方向より右に打って行くということを考えなければならない。重要なことは、できるだけ風とケンカするようなボールを打たないという事だ。右から風がふいているのに、左からスライス気味のボールを打って風とケンカをさせるといふ打ち方は、止めるべきで、風の強さにより普通の狙い所より2～3ヤード右に打とうとか、5ヤード右に打とうとか風に乗せる方法が賢い方法である。横風の場合サイドフォロー（横追い風）、サイドアゲンスト（横向かい風）と、あるので方向性ととも、距離感を考えて打って欲しい。



風は、すべてのプレーヤーに対して同じ条件。そのため、必要な対策をしたうえで（上記の記載事項）無理をして飛ばそうとせず、普段と同じスイングをすることが重要である。